

<b>教職概論</b>		<b>講義</b>	<b>教授 平沢 信康</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>教 職 科 目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>25200101</b>	

### 1. 授業のねらい・概要

現代社会における教職の重要性の意識および期待の高まりに鑑み、教職の社会的意義と職務内容および教師の役割を理解する。あわせて服務上の義務などについて法規を認識しつつ、教職への使命感を涵養することをねらいとする。

教育職員免許状の取得を希望する受講者が教職をめぐる諸状況について多角的に把握し、進路選択をするうえで必要な各種の情報を提供する。

さらに進んで、我が国における今日の学校教育の状況を背景として、教職という専門職の在り方を省察しつつ教師のあるべき姿を探求し、自ら理想像を描き、これからの時代に必要とされる教員の資質能力に関して熟考する。

### 2. 授業の進め方

基本的には、講義要旨（レジュメ）を配布し、その教材資料をもとに講義形式で進めるが、適宜インターネットを活用して受講学生のアクティヴ・ラーニングを促す。具体的には受講学生の所有するスマホを使用し、語義や法律の条文、各種統計データや画像資料などを検索して確認し、理解を深める。

また、教職に対して受講者が抱いている課題意識や被教育体験を表現し、全員でシェアする機会も随時設けたい。

なお、新型コロナウイルス感染のリスクが高まる場合は遠隔授業に切り替え、メールで講義要旨を配信する。

### 3. 授業計画

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職と教師について</li> <li>2. 教員の養成について — その歴史と現状</li> <li>3. 教育職員免許状について</li> <li>4. 教員の信用失墜行為と進退・処分</li> <li>5. 教員の採用</li> <li>6. 任命と服務義務および条件附採用</li> <li>7. 多様な研修制度 — 法規と種類</li> <li>8. 教員の身分と職制</li> <li>9. 教職員の給与負担制度</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>10. 教職のストレスと教師のメンタルヘルス</li> <li>11. 教師の職能団体と教職員組合の歴史</li> <li>12. 「不適格教員」 — 〈問題教師〉の種類と対策</li> <li>13. 教員の人事評価制度と人事管理</li> <li>14. 「チーム学校」運営への自覚—職務分掌・同僚との協力 および内外の専門家との連携・対応</li> <li>15. 教職に求められる望ましい資質能力： 理想の教師像を求めて教師の力量形成を考える</li> </ol>
--	---

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義要旨の pdf 版を事前に配信するので講義前に目を通しておき、さらには参考文献をはじめ本学図書館の蔵書などにあたって予習復習（各 1 時間）する。また講義後、配布資料につき次週までに復習しておくこと。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了後、講義内容に関する感想ないし質問を書いて感想文を提出してもらおう。その小文の内容に対して、講師がコメントする（誤字添削を含む）。

また学期末試験の終了後、講評を与え、特に注意を喚起すべき事項（多かった誤答など）についてメール配信で指摘する。

### 6. 授業における学修の到達目標

1. 教職の歴史的・制度的変遷を理解する。
2. 近年の教育界の動向をふまえて、現代の教員に求められる役割を理解する。
3. 教員の職務内容や教員に課せられる服務上および身分上の義務を理解する。

4. 我が国における今日の社会状況を背景として、学校の担う役割が拡大かつ多様化するなかで、教員が学校内外の専門家たちと連携し、役割分担して対応する必要性についても理解を深める。

#### **7. 成績評価の方法・基準**

学期末試験（筆記試験）を実施する。学期末試験の成績（45%）と平常点（55%）を基に総合的に評価する。平常点は、毎回の講義終了後に記してもらった感想メモ内容の濃淡や質問の鋭さ、誤字脱字の有無、受講態度・取り組み姿勢（積極性）、授業への貢献度をもとに評価する。

なお、新型コロナ感染のリスクが急拡大する場合は、学期末試験を実施せず、レポート提出に替えることがある。

#### **8. テキスト・参考文献**

テキストは、特に指定しない。自作プリント（講義要旨）を配布する。

参考文献：関川悦雄・羽田積男『現代教職論』（弘文堂、平成28年）

#### **9. 受講上の留意事項**

テレビニュースや新聞雑誌などで取り上げられる教職に関する時事的な情報に敏感になってほしい。常日頃、教職に関するニュース報道は積極的に視聴すること。

また教員採用試験の受験雑誌にある当該情報にも目を通すことが望ましい。

なお、本科目は本学看護学部看護学科との合同授業として開講する。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当しない。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。